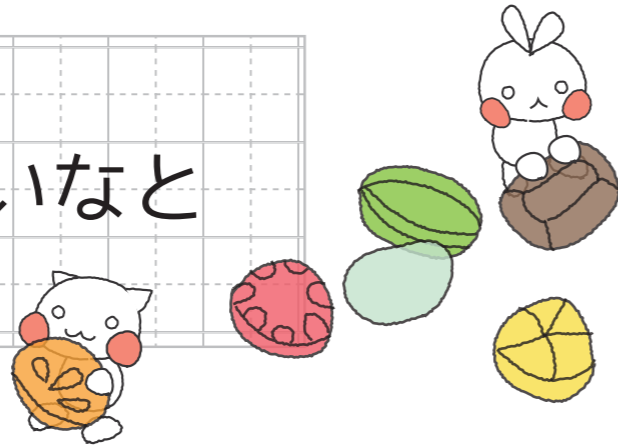


こんなことも  
やっていきたいなと  
思っています



「きょうだいさんのための本」のつづきを

1冊目の「きょうだいさんのための本」は、きょうだいさんと、親御さんや周りの大人の方がお互いを大好きな気持ちを伝えあうきっかけになるものを、と思って作りしました。2冊目は、病気で兄弟姉妹を亡くしたきょうだいさんが、親御さんと一緒に、亡くなった兄弟姉妹のことを思い出したり、親御さんがきょうだいさんのことも同じように大切に思う気持ちを伝えるきっかけになるものを、と思っています。他にも、こんな「きょうだいさんのための本」をつくりたいなあという計画はいろいろあって…。

- たとえば
- ・きょうだいさんに病気のことを説明する冊子  
病気そのものの説明よりも、自分の兄弟姉妹が病気になってショックだったこと、不安だったことを受け止めてもらったり、周りの人に病気について聞かれたときにどんなふうに答えるか、ちょっと練習できることに重きをおいた、いろんな病気に応用できるものがあるといいなあと思っています。
- ・シブレンジャー絵本  
実は、シブレットの頭の中にはシブレンジャーの物語がちゃんとあるのです。いつかこれを絵本のよくな感じで冊子にできたらなあ…と思っています。
- ・少し大きくなったきょうだいさん向けの、マイナスの感情の逃がし方のヒントになるような冊子  
「いやだ」とか「悔しい」とかのマイナスの感情を、爆発させず、無理やり蓋をすることもなく、少しずらしたり、かわしたりしながらつきあっていくための考え方のヒントになるようなものがほしいなあと思っています。大人のきょうだいが、上手にユーモアや笑いで乗りきってきたエピソードとか…? 「きょうだいあるある話」とか? くすくすと笑って少し力の抜ける冊子があるといいなあと思っています。

ぬいぐるみの病棟ツアー

今、図書館で、真夜中のぬいぐるみツアーがはやっているそうです。子どもたちのぬいぐるみが図書館で1泊して、夜中に図書館の中を探検します。次の日おむかえに来た子どもたちは自分のぬいぐるみが図書館を探検している姿の写真と、ぬいぐるみが気に入った絵本を1冊借りて帰るのです。たくさんのぬいぐるみが協力して高い棚の絵本をとろうとしていたり、お気に入りの絵本を読んでもらっている姿の写真はとても可愛くて、これを小児病棟でもできないかなあ…と思っています。

ほとんどの大きな小児科は感染予防のためにきょうだいさんが入ることはできませんが、きょうだいさんのぬいぐるみなら消毒して入れるはず。きょうだいさんの代わりに、ぬいぐるみが病棟の様子を写真できょうだいさんに伝えてくれるのはなかなかよいかも…ぬいぐるみが入院している兄弟姉妹と会えたり、入院している子の先生や担当の看護師さんにごあいさつしたり、他のきょうだいさんのぬいぐるみと、ぬいぐるみ同士がお友達になったり…可愛くてすてきなことになる予感がします。

きょうだいさんが自分だけ蚊帳の外に感じるために、入院中もきょうだいどうしのつながりが途切れないように、できることをいろいろ考えていきたいなと思っています。

Q&Aの  
ページ

しぶたねはどうやってつくったのですか?



代表が中学生の頃、病棟の廊下で親御さんを求めて泣く幼いきょうだいたちと出会ったことがしぶたねを立ち上げるきっかけになりました。その後代表は、大学の福祉系の学部を卒業し、研究生として大学に残りながら、きょうだい支援をライフワークにしていこうと決めました。アメリカで行われているきょうだいのためのワークショップである「シブショップ」を「きょうだい支援の会」の有馬さんに教えていただき、これを日本でも開くことを最初の目標に、まずはシブショップのファシリテーターをできる人材（キャンプリダーの経験のある大学の先輩、シブレットです）をつかまえました。

もっと仲間を増やすため、病気の子どもに関する研究会やシンポジウム、親の会の集まりや勉強会などに参加して、「こういうことをしたいです」と伝え続けました。そんな中で出会った大学生（スタッフなお）と3人で「しぶたね」を立ち上げました。後に、なおと出会った講座の担当をしてくださっていたながたさんがスタッフに加わってくださり、今の体制になりました。

シブショップって?



シブショップは、シブリング（きょうだい）のためのワークショップという意味の造語で、米国きょうだい支援プロジェクトが開発した支援プログラムです。もともとは8歳から13歳までの、特別なニーズのある子どもをきょうだいを対象に、ゲーム、料理、情報提供などを通して、きょうだいが同じ立場のきょうだいと出会い、話し、サポートしあう目的で開かれています。

シブショップの目的は、次の5つです（きょうだい支援を広める会のサイトより）

- 1 障害児（特別なニーズのある子ども）のきょうだいがリラックスした楽しい雰囲気の中で、同じ立場の仲間と出会う機会を提供する。
- 2 障害児（特別なニーズのある子ども）のきょうだいによくある悩みや喜びを仲間と話し合う機会を、きょうだいに提供する。
- 3 障害児（特別なニーズのある子ども）のきょうだいがよく経験する状況に仲間がどう対処しているかを知る機会を、きょうだいに提供する。
- 4 障害（特別なニーズ）のある兄弟姉妹がいることで起こる様々なことについて知る機会を、きょうだいに提供する。
- 5 障害児（特別なニーズのある子ども）のきょうだいによくある悩みや得がたい経験について理解を深める機会を、親や専門家に提供する。

もっと詳しいことは、こちらのサイトからどうぞ  
 きょうだい支援の会 [http://www.geocities.jp/ssgj\\_tokyo/](http://www.geocities.jp/ssgj_tokyo/)  
 きょうだい支援を広める会 <http://hiromeru.kt.fc2.com/>

はなしあいかつどうをしないのはなぜ?



きょうだい会にはいろんなかたがあります。しぶたねの「きょうだいの日」は、気持ちを話し合う時間のないスタイルで行っています（子どもたちが気持ちを話したいと思った時には、受け止める準備はできていますし、子どもたちにメッセージを伝えることはしています）。病気のことで詳しく知らない状態で来るきょうだいさんもいますし、初参加のきょうだいさんが毎回いること、半年に1回たった4時間一緒に過ごすだけのつながりで気持ちを話すことの負担、短い時間内ではせつかく話してくれたことをちゃんと受け止められないのではないかという心配から今のスタイルになりました。「気持ちを吐き出す時間がないと意味がないのでは?」と聞かれることもありますが、自分のしんどさを知ってくれている人の中で安心してあそぶことを求めて来るきょうだいさんも多く、ただ安心してあそびきる場をつくる意味はじゅうぶんにあると感じています。シブショップの創始者であるマイヤーさんに尋ねた時の答えはこうでした。「Support（大文字S、正式なサポート）とsupport（小文字s、非公式な小さなサポート）がある。正式な話し合いプログラムでSupportすることがすべてなのではなくて、クラフトや料理の途中できょうだいがふと話をしてくれることを受け止めるような小さな「s」upportがうまくいっているなら無理に「S」にこだわらなくてもだいじょうぶ。必要以上に子どもたちを暗い世界に引きずり込むことはないよ。」もちろん気持ちを話したい子に話せる場は必要です。いろんなかたの会があって、選べるようになるといいなあと思っています。